Gemini 4 Argon の知財業務への適用評価

— どの知財業務に、どう使えるか —

2026 年 10 月 14 日（情報は同日時点）

Claude Opus 5.5

凡例

・本文中の上付き番号［n］は、文末「参考文献」の番号に対応する。

・「確認済み事実」は一次ソース（Google 公式発表・公式文書・公的機関の文書）で裏付けた事項、「分析」は筆者による評価・推測である。

・【未確認】は一次ソースで確認できなかった事項を示す。ベンチマーク値の多くはベンダーの自己申告である。

要旨

1. **前提はおおむね正しい。ただし２段階のリリースである。**Google は 2026 年 9 月 30 日（米国時間）に発表し、当初はサイバー防御者向けの Fairwind Program に限定提供した[1]。10 月 13 日には、API（AI Studio・Gemini platform）、Antigravity（Ultra）、Gemini アプリと検索の AI Mode（Pro／Ultra）へ一斉に展開し、「globally available」と表明した[2,3]。日本語版の GA 告知と東京リージョン対応は確認できなかった【未確認】。

2. **知財業務上の強みは３点ある。**①入力と出力で共有する 1M トークンの窓と、最大約 1M トークンの長大出力[1,4]。②長文推論ベンチマーク GraphWalks（256K～1M）での大差の首位（84.2%）[1,5]。③第三者評価で最も低い水準のハルシネーション率（15%）[6]。無効資料調査・FTO のクレームチャート作成や、数百件規模の公報群を読み込む IPL の一次分析で有力な候補となる（分析）。

3. **ただし「慎重型」のモデルである。**同じ第三者評価で正答率は 50%にとどまり、GPT-6 Astra（63%）より 13 ポイント低い[6]。誤答は少ないが「答えない」部分が残るため、見落としの検証が欠かせない（分析）。

4. **最大の実務論点は機密情報の入力先である。**未公開発明は、入力が学習に使われない有料 API・Google Cloud・企業向け契約の環境に限るべきである[7,8]。個人向け Gemini アプリ（「アクティビティを保持」がオン）は学習・人手レビューの対象になり得る[9]。どの環境でも、出力の最終責任は人（弁理士）が負う[10–12]。

1. 事実確認（確認済み事実）

項目	確認内容
発表	2026 年 9 月 30 日（米国時間）、Koray Kavukcuoglu（Google DeepMind SVP）名義で発表。当初は「trusted cyber defenders」向けの Fairwind Program に限定提供し、開発者・企業・一般向けは「as soon as possible」とした[1]。
一般提供	2026 年 10 月 13 日。API を通じて開発者・企業向けに「globally available」（AI Studio・Gemini platform）。Google AI Ultra 加入者は Antigravity、Google AI Pro／Ultra 加入者は Gemini アプリと検索の AI Mode で利用できる[2,13]。
Google Cloud	「available for everyone on Google Cloud」。Gemini for business（Web・デスクトップ・モバイル）、Gemini platform の API（モデル ID：gemini-4-argon）、AI Studio、Antigravity で提供[3]。
ステータス	Cloud のモデルページで「Launch stage: GA」「Release date: October 13, 2026」[14]。
位置づけ	Gemini 4 ファミリーの最初のモデルで、残りのモデルは今後投入するとされる[2]。既存モデルの改変やファインチューンではない新規モデル[4]。Cloud のモデル一覧では「Argon」が「Pro」「Flash」と並ぶ独立の区分[14]。
系列上の背景	Flash 級を超える Google DeepMind の独自モデルとしては 7 カ月超ぶり[6]。2026 年の Google は Flash 系モデルを中心に投入していた[15]。
サイバー用途	Fairwind Program の参加者には、サイバー関連のガードレールを外した版を提供する。10 月 13 日から数百の追加パートナーへ拡大[2]。

前提の検証結果

「10 月 13 日に世界中で利用可能」は、Google の表現（"globally available"）と一致しており、正しいと判断する。ただし次の点は一次ソースで確認できなかった。

- 日本語版の公式ブログは、10 月 1 日に 9 月 30 日発表の翻訳を掲載したのみである[16]。10 月 13 日の GA 告知の日本語版は確認できなかった。
- Google Cloud で明記された提供リージョンは「global」「us」「eu」のみで、東京（asia-northeast1）の記載はない[14]。日本からは global エンドポイント経由で使えると推測されるが、明記した一次ソースはない【未確認】。
- Gemini Enterprise の日本リージョン（データ所在地と ML 処理の国内完結）は 2026 年 7 月から 3.5 Flash で提供されている[17]。Argon がその対象かは確認できなかった【未確認】。

- 無料ユーザーは対象外である。Gemini アプリと AI Mode は Google AI Pro／Ultra 加入者のみが対象[2]。

2. 主な仕様（確認済み事実）

項目	内容	知財業務上の意味（分析）
入出力窓	最大 1,048,576 トークン。入力・思考・出力で共有する[4,14]。	公報数十〜百件超を一度に投入できる。ただし 900K を入力すると、残りは約 148K になる。
出力長	既定は 65,536 トークン。継続プロトコル（long decode）で最大約 1M トークン。前世代は 64K だった[1,6,14]。	長大なクレームチャートや多数件の対比表を、一続きで出力しやすい。
入力の種類	テキスト、画像、音声、動画（PDF を含む）。出力はテキストのみ[4,14]。	公報 PDF・図面・表の読解はできる。図面の生成はできない。
推論	thinking レベルは low／medium（既定）／high[14]。	難しい対比は high、大量のスクリーニングは low と使い分けられる。
ツール	Function calling、Code execution、Google 検索グラウンディング、URL context、File search、構造化出力、Computer use（Preview）[14]。	構造化出力（JSON）で「クレーム要素×文献」の対比表を作りやすい。
キャッシュ	キャッシュ入力は 95%引き[2]。明示キャッシュは非対応で、暗黙キャッシュのみ[14]。	同じ公報群への反復質問が安くなる。
API 価格	導入価格は 100 万トークンあたり入力$2・出力$10（2026 年 11 月 30 日まで）。以降は$4・$20[2,3]。	参考：GPT-6 Astra は$10・$50[18]、Claude Opus 5.5 は$4・$20[15]。大量処理のコストで優位。
知識の時点	知識カットオフは 2026 年 3 月[4]。	2026 年 4 月以降の公報・判決は知識として持たない。検索または資料の投入が必須。
企業向け統制	Cloud ではデータ所在地、顧客管理の暗号鍵（CMEK）、VPC Service Controls、Access Transparency に対応[14]。	企業の機密管理要件に合わせやすい。

データの取り扱い（確認済み事実）

- **有料 Gemini API・Google Cloud：**Google はプロンプトと応答を製品改善に使わない。ただし禁止用途を検知するため、限られた期間ログを保持する[7]。

- **AI Studio：**課金が有効な Cloud プロジェクトに紐づくアカウントなら有料サービス扱い、そうでなければ無料サービスとなる。無料サービスの入出力は製品改善に使われ、人手レビューもあり得る。規約自体が、機密情報を入力しないよう明記している[7]。
- **Gemini Enterprise（有料）：**顧客のコンテンツを製品改善に使わないと規約に明記されている[8]。
- **個人向け Gemini アプリ：**「アクティビティを保持」（Keep Activity）がオンだと、学習と人手レビューの対象になり得る。人手レビュー済みのチャットは最長 3 年保持される。オフでも 72 時間は保持される。職場・学校アカウントは別のデータ取扱条件となる[9]。

3. ベンチマークと第三者評価

3.1 Google 公表値（確認済み・ベンダー自己申告）

評価	Argon	GPT-6 Astra	Claude Fable 5.1	Claude Opus 5.5	知財業務との関連（分析）
GraphWalks 256K〜1M（長文推論）	**84.2%**	71.8%	65.0%	66.8%	大量の公報を横断して対比する作業に最も関係が深い
GraphWalks ～128K	**99.7%**	98.7%	91.4%	90.6%	—
Vals Index（金融・法務・税務・コーディング）	**68.9%**	63.1%	65.8%	67.0%	専門的な知的業務の総合指標
Harvey's Legal Agent Benchmark	**19.6%**	5.4%	6.7%	3.8%	法務調査・起案。ただし絶対値は低い
Vals Finance Agent v2	**65.4%**	53.5%	58.9%	58.6%	—
AutomationBench（Zapier）	**51.3%**	41.4%	31.4%	42.5%	業務の自動化・エージェント
DeepSWE v1.1	**77.9%**	74.1%	67.4%	74.2%	—
LVBench（長尺動画理解）	**91.7%**	87.5%	79.7%	83.7%	—
FrontierSWE v2	55.0%	**65.5%**	56.3%	62.3%	—
Terminal-Bench 4.0	57.4%	58.2%	57.9%	**66.4%**	—
CWE-bench v1	**68.0%**	**68.0%**	58.0%	67.0%	—

出典：[1,5]。数値は Google 公表のベンチマーク表による（太字は各行の最高値）。第三者による再現は確認されていな

い。

本表の 11 項目では、Argon が 8 項目で単独首位、1 項目（CWE-bench）で同率首位である。劣後するのは FrontierSWE と Terminal-Bench の 2 項目である。前世代（Gemini 3.1 Pro）との比較では、出力上限が 64K から 1M へ広がったことが最大の変化である[1]。Harvey は、法務エージェント評価で 3.1 Pro から大幅に改善したと述べている[3]。

3.2 第三者評価（確認済み事実）

- **総合：**Artificial Analysis（AA）の Intelligence Index は 53（high 設定）。GPT-6 Astra（53）と同水準で、GPT-6.1 Sol（52）を 1 ポイント上回る。Gemini 3.1 Pro Preview（30）からは 23 ポイントの上昇[6]。
- **ハルシネーション：**AA-Omniscience でのハルシネーション率は 15%で、Intelligence Index 45 以上のモデルでは最低である（GPT-6 Astra は 51%、GPT-6.1 Sol は 54%）。一方、正答率は 50%で、Gemini 3.1 Pro Preview より 5 ポイント、GPT-6 Astra（63%）より 13 ポイント低い。AA は、推測で誤答するより「知らない」と認める傾向がはるかに強いと説明している[6]。
- **エージェント性能：**AutomationBench-AA では 78%で首位（Claude Sonnet 5.5 の 71%に 7 ポイント差）。Terminal Bench 4 の AA 独自測定は 57%で、Claude Sonnet 5.5（64%）、Claude Opus 5.5（60%）、GPT-6 Astra（59%）に次ぐ[6]。Google の表（Opus 5.5 は 66.4%）より差は縮まる。
- **コスト：**1 タスクあたり平均 6.2 万の出力トークンを生成する（GPT-6 Astra は 2.7 万）。導入価格では 1 タスク$1.99 で Astra の 60%だが、これはトークンの削減ではなく単価の安さによる。通常価格では$3.98 となり、Astra の約 1.2 倍になる[6]。
- **社内の懐疑論：**Bloomberg は 9 月 30 日、Gemini 4 はベンチマークでは好成績だが、社員が実務で使うと評価が下がり、一部のコーディングタスクに苦戦すると、匿名の関係者の話として報じた[15,19]。Bloomberg 原文の詳細（Google 側の反論など）は本文書では確認していない【未確認】。
- **顧客コメント：**Harvey は長文書の分析でも精度が保たれたと述べ[3]、Isomorphic Labs は複雑な PDF や特許から情報を抜き出す作業が数週間から数時間に短縮されたとしている[2]。いずれも Google が選んで掲載したもので、肯定的な評価に偏る点に注意が必要である。
- **評価の空白：**多言語ベンチマークの数値は、本調査で確認した Google 公表資料には見当たらなかった。日本語の特許文書での性能について、現時点で公的なデータはない【未確認】。

4. 知財業務別の適用評価（分析）

以下は、確認済みの仕様とベンチマークに基づく分析・推測である。実案件での検証結果ではない。推奨度は◎（有力）、○（使える）、△（要検証）の 3 段階とした。

業務	使えそうな使い方	期待できる効果	限界・リスク・注意点	推奨度
先行技術調査・無効資料調査	検索式で抽出した母集団（数十〜百件超の公報全文）を一括投入する。クレームを要素に分解し、各文献の該当段落・図番号つきでクレームチャートを構造化出力させる。X・Y 文献の候補を一次ランク付けさせる。	1M 窓と長文推論の強さ（GraphWalks 84.2%）が最も効く[1]。読み込みと対比の工数を大きく減らせる見込み。	母集団の形成自体は専用 DB（J-PlatPat、商用 DB）で行う必要がある。段落番号や記載内容の誤引用に備え、全件の照合が必須。慎重型のため「該当なし」と過少に報告する可能性も検証すべき。	◎
FTO（侵害予防）調査	イ号の仕様書・図面・写真とクレームを要素対比させる。文言侵害・均等の論点を洗い出させる。設計変更案を検討させる。	多数の特許と自社製品の一次スクリーニングを速くできる。	クレーム解釈は国ごとの法理に左右される（日本の均等 5 要件、米国の均等論、EPO では G 1/24 により明細書の参酌が必須化[20]）。AI の解釈は法的判断ではなく、最終判断と鑑定は弁理士・弁護士が担う。	○〜◎
明細書の読解・要約・図面理解	公報 PDF を図面ごと読ませ、構成要素・作用効果・実施例を要約させる。図面の符号と本文の対応表を作らせる。	テキスト・表・図・画像が混在する長文書を一つの出力にまとめる力[3]。	図面の細部（線の接続、断面）を読み違えるおそれがある。特許図面に特化した公表ベンチマークはない。	◎
明細書・クレームのドラフト、中間処理	発明提案書から明細書の骨子、実施例の展開、クレームツリー案を作らせる。拒絶理由通知と引用文献を読ませ、相違点の抽出、補正案、意見書の骨子を作らせる。	長大出力で明細書全文の一次稿を一気に作れる。Vals・Harvey の法務起案系で高スコア[1]。	未公開発明は必ず有料・企業契約の環境で扱う。AI が実質的に生み出した部分は、米国などで発明者適格の論点になり得る。補正の新規事項追加にあたるかは人が判定する。	○
IPL・ポートフォリオ分析	公報群（要約・クレーム・書誌）から技術マップや「課題×解決手段」マトリクスを作らせる。Code execution で出願動向を集計・可視化させる。競合の注力領域について仮説を立てさせる。	長文の横断読解と、構造化出力・コード実行の組み合わせ。導入価格なら大規模バッチも現実的。	件数の集計は、必ず DB 側の正データで検算する。数千件以上は検索拡張や分割処理が必要。戦略的な示唆は仮説として扱う。	◎
外国特許文献の	中国語・韓国語・ドイツ語の	1M 窓で原文と訳文	多言語性能の公表値がない。特許	△〜○

業務	使えそうな使い方	期待できる効果	限界・リスク・注意点	推奨度
翻訳・多言語調査	公報を要約・対訳させる。クレーム要素の対応づけをさせる。	を並べて検証しやすい。	用語の訳語の一貫性は未検証。出願用・証拠用の正式翻訳は専門翻訳と人の確認が必須。	
発明発掘・アイデア創出	技術課題から代替手段、周辺特許網、回避設計案を生成させる。TRIZ 的な発想展開をさせる。	推論の深さ（high 設定）と長い思考。	AI が実質的に発明した部分は、発明者適格の問題を生じ得る。創出過程の記録を残しておく。	○
契約・ライセンス、SEP/FRAND	ライセンス契約の条項レビューやロイヤリティ条件の比較。SEP 宣言リストと規格書（3GPP 等）の対応づけの一次作業。FRAND 判例の論点整理。	Harvey は、M&A、データプライバシーなどの法務評価での改善を報告[3]。長文契約の比較に向く。	判例や規格条項を捏造するリスクがある。知識カットオフ（2026 年 3 月）以降の判例は知らない[4]。検索グラウンディングの出典確認が必須。	○
知財部門業務のエージェント化	期限管理やウォッチング（新規公報の定期取得→要約→関連度判定→担当者への通知）をワークフロー化する。Gemini Enterprise のエージェント機能と連携させる。	AutomationBench で首位（Google 値 51.3%、AA 版 78%）[1,6]。不可逆な操作の前に確認を求めるよう訓練されている[3]。	Google 値でも成功率は 5 割前後。特許庁データベースへの自動アクセスは、各庁の利用規約（大量・自動アクセスの制限など）を確認する。	○

5. 他モデルとの使い分け（分析）

用途	第一候補	理由
大量の公報の一括読解・対比、IPL の一次分析	Gemini 4 Argon	長文推論で大差がある（GraphWalks 256K〜1M で 84.2%、他は 71.8%以下）[1]。1M 窓で単一料金、価格も安い。
引用や事実の捏造を避けたい調査	Argon（見落とし確認を併用）	ハルシネーション率 15%。ただし正答率 50%のため、「答えない」部分を別モデルや人で補う[6]。
単発の知識問答、幅広い技術知識の想起	GPT-6 Astra	正答率 63%で Argon を上回る。ただし誤答率も 51%と高い[6]。
ターミナル操作を伴うエージェント作業	Claude Opus 5.5	Terminal-Bench 系で Argon を上回る（Google 表で 66.4%、AA 測定で 60%）[1,6]。総合的な推論・文章品質は自社評価で確かめる必要がある。

用途	第一候補	理由
コスト最優先の大量処理	Argon（導入価格期間中）または GPT-6.1 Sol	AA の 1 タスクあたりコストは Argon が$1.99 で、GPT-6.1 Sol はその約 2.7 分の 1[6]。

実務上の推奨構成：Argon で全件を読み、対比表の一次案を作る。次に別系統のモデル（Claude・GPT）で反証と見落としのチェックをかける。最後に人が原文と照合して確定させる。モデルの癖が異なる（Argon は慎重型で正答率が低め、Astra は積極型で誤答が多め）ため、組み合わせると相互補完が効きやすい（分析）。

6. 留意点

6.1 機密保持（未公開発明）

- **入力してよい環境：**課金が有効な Cloud プロジェクトで使う有料の Gemini API、Google Cloud（Gemini platform）、Gemini Enterprise などの有料企業契約[7,8]。データ所在地・CMEK・VPC Service Controls を要件に応じて設定する[14]。
- **避けるべき環境：**課金に紐づかない無料の AI Studio・無料の API 枠と、個人アカウントの Gemini アプリ（「アクティビティを保持」がオン）[7,9]。Google AI Pro／Ultra は個人向けサブスクリプションであり、企業向けのデータ保護とは別の条件である（分析）。
- **クライアントの合意：**日本弁理士会のガイドラインは、学習に使われるか否かにかかわらず、クライアントの秘密情報を生成 AI に入力する場合は合意を取るべきとする。秘密保持の約束がないプラットフォームへの入力は、新規性喪失のおそれもあると指摘している[10]。
- **地域上の論点：**Cloud で明記された Argon の処理リージョンは、現時点で global・us・eu のみである[14]。国内での処理を求める顧客や社内規程がある場合、その要件を満たせない可能性がある（分析）。

6.2 ハルシネーション（引用文献・判例の捏造）

- AA-Omniscience の低いハルシネーション率は、知識問題で誤答を作らないことを示す指標である。公報の段落番号や判例番号の正確さを保証するものではない（分析）。モデルカードも、ハルシネーションを既知の限界に挙げている[4]。

- 実務ルールの例：①投入した文献からのみ引用させ、出典段落を必ず示させる。②検索グラウンディングを使った場合は、URL を全件開いて確認する。③判例・審決は公式データベースで原典と照合する。

6.3 検証可能性

- 構造化出力（JSON）で「主張」「根拠段落」「原文の引用」を分けて出力させる。原文引用の文字列が公報と一致するかを機械的に照合できる設計にする（分析）。

6.4 各国特許庁・職業規範の AI 利用ルール（確認済み事実）

- **日本：**日本弁理士会「弁理士業務 AI 利活用ガイドライン」（令和 7 年 4 月）は、生成物の正確性を弁理士が確認し、「最終的には弁理士が責任をもって提供するべきである」とする。守秘義務（弁理士法 30 条）と、民法 644 条の善管注意義務にも言及している[10]。
- **米国：**USPTO の AI ツール利用ガイダンス（2024 年 4 月 11 日、89 FR 25609）は、AI の利用を禁止せず、使用したツールの開示も一般には求めない。ただし誠実義務（37 CFR 1.56）、署名に伴う合理的調査義務（37 CFR 11.18）、守秘義務は全面的に適用される[11]。
- **欧州：**EPO 審査ガイドライン 2026（2026 年 4 月 1 日施行）は一般編第 5 節を新設し、AI の支援を受けたか否かにかかわらず、当事者が出願・提出書類の内容に責任を負うことを明記した[12]。

7. 推奨アクション

1. **検証環境：**有料 API（または Google Cloud）で検証環境を作る。導入価格の期間（2026 年 11 月 30 日まで）に大量の検証を回すと、費用対効果が高い[2]。
2. **比較検証：**結論が確定している過去の無効資料調査・FTO 案件（日本語公報が中心）を 3〜5 件選ぶ。Argon、Claude Opus 5.5、GPT-6 Astra で同じタスクを実行し、次を定量比較する。①X・Y 文献の再現率、②段落引用の正確率、③「該当なし」の過少報告率、④日本語クレームの要素分解の精度。
3. **過去の比較との接続：**Gemini 3.7／3.8 Flash、GPT-6 Astra、Claude Fable 5.1 の検証と同じ手順にすれば、Argon で何が変わったかを連続して示せる。核心は、256K を超える長文を投入したときに性能の低下が小さいかどうかである。
4. **社内ルール：**「未公開発明は有料・企業契約の環境のみ」「AI 出力の引用は原典照合を必須とする」を、日本弁理士会のガイドラインに沿って明文化する[10]。

8. 未確認事項・ヘッジ

- **日本関連：**日本語の GA 告知、Gemini アプリの日本での提供範囲、Gemini Enterprise・Workspace（日本のテナント）での提供状況、東京リージョンへの対応は、いずれも一次ソースで確認できていない。
- **仕様値：**Cloud ドキュメント記載の仕様（既定の出力上限 65,536、thinking レベル、ツール、リージョンなど）は調査時点の確認による。出力上限は資料により記載が異なり、Vals AI は最大出力を 262K と記載している[21]。実装時に最新のドキュメントで確認されたい。
- **モデルカード：**DeepMind サイトのモデルカードページ（deepmind.google/models/model-cards/gemini-4-argon/）は 404 となった。本文書は、10 月 13 日の公式ブログからリンクされた PDF 版を参照した[4]。
- **AutomationBench：**Google の値（51.3%）と AA の値（AutomationBench-AA、78%）は別のバリアントであり、直接は比較できない[1,6]。
- **価格：**導入価格の終了日（2026 年 11 月 30 日）は、10 月 13 日の公式発表で明記された[2,3]。9 月 30 日の時点では終了日は未公表だった[6]。
- **出所の性質：**ベンチマークの多くは Google の自己申告であり、顧客コメントも Google が選んで掲載したものである。特許業務に特化した独立の評価は、現時点で存在しない。
- **Bloomberg 報道：**有料記事のため原文を確認しておらず、内容は 9to5Google の引用による[15]。

参考文献

[1] Google（Koray Kavukcuoglu）「Gemini 4 Argon: our next era of frontier intelligence」Google 公式ブログ、2026 年 9 月 30 日。https://blog.google/innovation-and-ai/models-and-research/gemini-models/gemini-4-argon/ 【確認済】本文書作成時（2026 年 10 月 14 日）にアクセスし内容を確認。ベンチマーク表は画像のため、数値は文献[5]で照合

[2] Google（Koray Kavukcuoglu）「Gemini 4 Argon: Built to solve your hardest problems」Google 公式ブログ、2026 年 10 月 13 日。https://blog.google/innovation-and-ai/models-and-research/gemini-models/introducing-gemini-4-argon/ 【確認済】本文書作成時（2026 年 10 月 14 日）にアクセスし内容を確認

[3] Google Cloud（Michael Gerstenhaber）「Gemini 4 Argon available on Google Cloud, built to help solve your business' hardest problems」Google Cloud Blog、2026 年 10 月 13 日。https://cloud.google.com/blog/products/ai-machine-learning/gemini-4-argon-available-on-google-cloud 【確認済】本文書作成時（2026 年 10 月 14 日）にアクセスし内容を確認

[4] Google DeepMind「Gemini 4 Argon — Model Card」2026 年 10 月。

https://storage.googleapis.com/deepmind-media/Model-Cards/Gemini-4-Argon-Model-Card.pdf 【確認済】本文書作成時（2026 年 10 月 14 日）にアクセスし内容を確認。DeepMind サイトのモデルカードページ（deepmind.google/models/model-cards/gemini-4-argon/）は 404 のため、公式ブログ掲載の PDF 版を参照

[5] DataCamp「Gemini 4 Argon: Features, Benchmarks, Pricing, and Access」2026 年 9 月 30 日。https://www.datacamp.com/blog/gemini-4-argon 【確認済】本文書作成時（2026 年 10 月 14 日）にアクセスし内容を確認（Google 公表ベンチマーク表の数値を照合）

[6] Artificial Analysis「Gemini 4 Argon: Google is back as one of the top three labs in intelligence achieved」2026 年 9 月 30 日。https://artificialanalysis.ai/articles/gemini-4-argon-google-top-three-labs 【確認済】本文書作成時（2026 年 10 月 14 日）にアクセスし内容を確認

[7] Google「Gemini API Additional Terms of Service」2026 年 3 月 23 日発効。https://ai.google.dev/gemini-api/terms 【確認済】本文書作成時（2026 年 10 月 14 日）にアクセスし内容を確認

[8] Google Cloud「Gemini Enterprise Business Edition 追加規約」。https://cloud.google.com/terms/gemini-enterprise/business 【調査時確認】調査時（2026 年 10 月 14 日）に確認。本文書作成時は未再確認

[9] Google「Gemini Apps Privacy Hub」2026 年 9 月 24 日更新。https://support.google.com/gemini/answer/13594961 【確認済】本文書作成時（2026 年 10 月 14 日）にアクセスし内容を確認

[10] 日本弁理士会「弁理士業務 AI 利活用ガイドライン」令和 7 年 4 月。https://www.jpaa.or.jp/cms/wp-content/uploads/2025/04/AIservices-guideline.pdf 【確認済】本文書作成時（2026 年 10 月 14 日）にアクセスし内容を確認

[11] USPTO「Guidance on Use of Artificial Intelligence-Based Tools in Practice Before the United States Patent and Trademark Office」89 FR 25609、2024 年 4 月 11 日。https://www.federalregister.gov/documents/2024/04/11/2024-07629/guidance-on-use-of-artificial-intelligence-based-tools-in-practice-before-the-united-states-patent-and-trademark-office 【原文未再確認】本文書作成時は掲載サイトがサーバーエラーで閲覧できず。内容は調査時の確認による

[12] Mathys & Squire「European Patent Office previews the 2026 Guidelines for Examination」2026 年 2 月 16 日。https://www.mathys-squire.com/insights-and-events/news/european-patent-office-previews-the-2026-guidelines-for-examination/ 【確認済】本文書作成時（2026 年 10 月 14 日）にアクセスし内容を確認（二次資料。EPO ガイドライン原文は未参照）

[13] Google「Gemini Apps release notes」（2026.10.13 付の項）。https://gemini.google/release-notes/ 【調査時確認】調査時（2026 年 10 月 14 日）に確認。本文書作成時は未再確認

[14] Google Cloud「Gemini 4 Argon | Gemini Enterprise Agent Platform」Google Cloud Documentation。https://docs.cloud.google.com/gemini-enterprise-agent-platform/models/gemini/4-argon 【一部確認】モデル区分（Argon／Pro／Flash）は本文書作成時に確認。仕様値（GA 表示・リリース日・リージョン・トークン上限・thinking レベル・ツール・企業統制）は調査時の確認による（再取得時はページ本文を取得できず）

[15] Daniel Bader「Gemini 4 Argon must reverse Google's AI inertia」9to5Google、2026 年 10 月 1 日。https://9to5google.com/2026/10/01/gemini-4-argon-must-reverse-googles-ai-inertia/ 【確認済】本文書作成時（2026 年 10 月 14 日）にアクセスし内容を確認

[16] Google Japan Blog（Gemini 4 Argon 発表の日本語版）2026 年 10 月 1 日。https://blog.google/intl/ja-jp/company-news/technology/gemini4argon/ 【調査時確認】調査時（2026 年 10 月 14 日）に確認。本文書作成時は未再確認。記事タイトルは未確認

[17] Google Cloud「Gemini Enterprise release notes」。https://docs.cloud.google.com/gemini/enterprise/docs/release-notes 【調査時確認】調査時（2026 年 10 月 14 日）に確認。本文書作成時は未再確認

[18] Trending Topics（Gemini 4 Argon の Artificial Analysis 評価に関する記事）2026 年 9 月 30 日。https://www.trendingtopics.eu/gemini-4-artificial-analysis-en/ 【調査時確認】調査時（2026 年 10 月 14 日）に確認。本文書作成時は未再確認。記事タイトルは未確認

[19] Bloomberg「Google grapples with employee skepticism about new Gemini model」（題名は URL からの推定）2026 年 9 月 30 日。https://www.bloomberg.com/news/articles/2026-09-30/google-grapples-with-employee-skepticism-about-new-gemini-model 【原文未確認】有料記事のため原文を確認していない。内容は 9to5Google の引用による

[20] Murgitroyd「EPO Guidelines For Examination: 2026 Amendments & Updates」Mondaq、2026 年 4 月 1 日。https://www.mondaq.com/patent/1797618/epo-guidelines-for-examination-2026-amendments-updates 【確認済】本文書作成時に検索結果の抜粋で確認（二次資料）

[21] Vals AI「Gemini 4 Argon」モデルページ。https://www.vals.ai/models/google_gemini-4-argon 【調査時確認】調査時（2026 年 10 月 14 日）に確認。本文書作成時は未再確認